

山口をもっと魅力的な街にしよう！

ーブラッシュアップ・ヤマグチー

	代表者	岩瀬陽希（人文 B3 年）
構成員	堂本悠太（人文 B3 年）前川大知（理学 B3 年）瞿豪（人文 B3 年）	
	檜崎桜花（人文 B3 年）野田虎汰（人文 B3 年）	
	小川廉太郎（国際 B2 年）池田真一朗（経済 B1 年）	
	大熊琉介（経済 B1 年）藤田真風（人文 B1 年）	
	坂下智紀（工学 B1 年）山根凜太（工学 B1 年）	
	福山夏寧（工学 B1 年）	

1. プロジェクト概要

本プロジェクトは、昨年度採択プロジェクト「山口のクリスマスを盛り上げよう！」の活動を踏まえ、さらなる山口の文化振興や地域課題解決に向けて活動するものである。山口の人々と交流を図りつつ、昨年よりも更に「山口のクリスマスを盛り上げる」ために規模を拡大したイルミネーションやイベントを行うことをベースに、山口全体に目を向けて幅広い活動を行った。山口に住む大学生として、文化振興や地域課題解決に向けたアプローチを模索し、人々に山口の良さを再認識してもらうことを目的として活動した。

2. プロジェクトの背景・目的

昨年度採択プロジェクト「山口のクリスマスを盛り上げよう！」は、私たちが学生生活を送る中で知った「日本のクリスマス発祥の地は山口である」という史実の認知度と山口市のイルミネーション文化には伸びしろがあると感じたことから企画を行った。山口市民として少しでも貢献したいという想いから山口商工会議所をはじめ「日本のクリスマスは山口から実行委員会」、山口県、山口市といった様々な組織の協力をいただきながらクリスマスイルミネーションや情報発信を行い、活動による効果も確認できた。地域や大学内から大きな反響を得ることができ、今年度の活動継続を期待する声を多くいただくことができた。今年度は、昨年実現できなかった事や改善点を踏まえ、より地域全体でひとつの課題に取り組む「域学連携」の形を強め、山口市民と交流しながら昨年度よりも更に「山口のクリスマスを盛り上げる」こと、そして山口全体に目を向け、山口に住む大学生として地域課題解決に向けたアプローチを模索し、人々に山口の良さを再認識してもらうことを目的として活動した。

3. 活動方法

昨年度に引き続き、基本的には月・水・金を活動日と定め週3回の活動を行った。活動開始当初は共通教育棟の教室を利用して活動を行っていたが、昨年度のイルミネーション関連物品の置き場が無いことや作業スペースが狭いということが非常に問題となっていた。そこで、6月にアパートの一室を契約して作業部屋とミーティング部屋を確保し、以降基本的にはこの物件で活動を行った。11月末のイルミネーション設置時期には、自主活動ルーム内でも作業させていただく事もあった。

先述した自主活動ルームについては、プロジェクト開始前からコーディネーターの方や学生支援課の方との相談場所としても活用させていただいた。それ以外は基本的にメールや電話を利用して山口県、山口市、山口商工会議所といった様々な関係機関と連絡調整を行った。後述するペットボトルツリーの装飾については山口そうごう自動車学校と平川地域交流センターに直接メンバーが出向いて交渉・調整を行う事もあった。



活動部屋での活動の様子

4. 主な活動内容

本プロジェクトの内容は、以下の2つの活動に大別される。

- ①8月の「山口七夕ちょうちんまつりのボランティア」
- ②12月の「山口大学正門付近の冬季イルミネーション」

4.1 山口七夕ちょうちんまつりのボランティアについて

まずこの活動の概要及び背景について記述する。「山口七夕ちょうちんまつり」（以下、ちょうちんまつりと略称する。）は、毎年8月6日、7日に中心商店街、県道204号線（早間田～大市町交差点）、一の坂川交通交流広場付近で行われる祭りである。スタッフとして火入れや竿たて、ブース運営などのボランティアを行った。昨年度の冬季のイルミネーションだけにとらわれず「山口の文化振興や地域課題解決に向けて活動する」という理念に基づき、ちょうちんまつりへの参与を決定した。本プロジェクト企画段階では、商工会議所の山口市ふるさとまつり実行委員会の方から「商店街部分は活気があるものの県道204号線部分には活気がなく、それを山大生のアイデアで改善できないか」という話を伺っていたため、当初は竹やペットボトルを使用して簡単に設置・撤去できるオブジェを設置し、来場者の県道204号線への回遊を促すと共に再利用や環境問題を地域の方に意識していただくきっかけをつくる予定であった。しかし商工会議所の方とミーティングを行う中で、ちょうちんまつりに関する予算が既に組まれており当団体からの新たな提案に予算を割くことができないことが分かり、当団体の予算も余裕がなかったため断念した。そこで、ちょうちんまつりに初めて関わることになる本年度はボランティアとして関わる事によって内側から問題点や課題をあぶり出し、次年度にそれを踏まえたうえでオブジェの設置などの提案をした方が良いのではないかという結論に至った。

次に活動内容について記述する。ボランティア内容は大きく分けて2つに分けられる。

1つ目は、県道204号線・ほたる広場・一の坂川交通交流広場における火入れや竿たてなどを行うボランティアである。具体的には①竹竿にちょうちんを付ける②ちょうちんの火入れ③竿たて④消えた火の再点火⑤竹さおの撤去という一連の流れを担った。④以外は人数が必要であったため、山口大学で募集された学生ボランティアや他サークルも参加した。当団体メンバーは特別にスタッフ腕章を渡され④の内容も行った。

2つ目は、パークロード部会が運営する「ちょうちんワークショップ」におけるブース運営ボランティアである。「ちょうちんワークショップ」は一の坂川交通交流広場噴水広場で主に小中学生を対象に行われたものであり、自分で書いた絵をちょうちんに貼り付け、それを竹に括り付けて火をいれるものであった。来年度、大学生の視点から何か商工会議所に企画を提案するつもりならば、ブースの運営の経験があっても良いのではないかというご好意から受付として運営に参加させていただくことができた。

また、商工会議所青年部の方に紹介いただき、8月7日にはKRY 山口放送の「熱血テレビ」の生中継にも火つけボランティアとして出演させていただくことができ、メンバーがインタビューに答える場面もあった。

4.2 山口大学正門周辺の冬季イルミネーション

まず、冬季イルミネーションについての概要について記述する。本年度の冬季イルミネーションの点灯期間は12月4日から12月25日までであり、点灯時間は昨年度と同じく17時から21時である。点灯範囲に昨年度と大きな変更は無く、山口大学吉田キャンパス正門及び正門前の道路を挟んだ先にある「街かど広場」とした。「街かど広場」については、昨年度は外側にライトを設置するにとどまったが、本年度は広場内のクスノキや通路のライトアップも行うことができた。

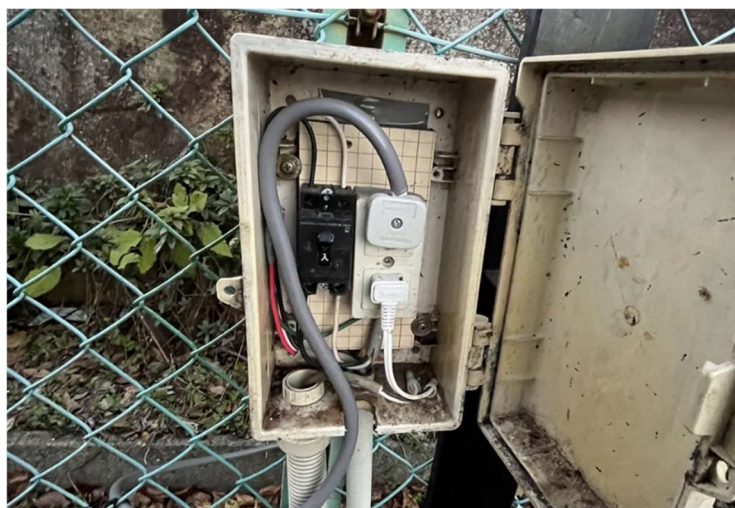
次に準備段階から設置後までの活動について順を追って記す。イルミネーション実現のための大まかな流れとしては、①点灯許可、②点灯のための電源確保、③LED イルミネーション本体及び配線の購入・加工、④設置準備、⑤設置⑥維持管理という流れになる。以下にそれぞれの段階について詳しく記述する。

① 点灯許可

山口大学敷地内、敷地外の双方とも特に問題なく許可をとることができた。「街かど広場」は山口県が管理している広場であり、管理上は公園も道路の一部になるため「道路占用許可」が必要であったが、昨年度も申請および許可を得る実績があったこともあり、所定の手続きを終えて滞りなく許可を得ることができた。しかし申請手続きの開始が遅れたことから点灯開始直前に許可が降りることとなり、今後は余裕を持った申請ができるようにスケジュールリングを見直す必要があると思われる。

②点灯のための電源確保

大学の正門の電源に関しては、大学の電気工事を請け負う業者のひとつである「中電工」に見積もりを依頼し、守衛所近くの分電盤からイルミネーション専用の仮設分電盤を敷設する電気工事により電源を確保した。本年度は昨年度的位置に加えて道路の向かい側にも仮設分電盤を設置したが、道路を跨ぐ部分に関してはおもプロ予算からケーブルプロテクターを購入・使用した。また、電源線が引けない部分に関しては昨年度に引き続いてバッテリーを電源とした。加えて、学内外問わずソーラーパネルを活用し、環境に配慮したイルミネーションも導入した。街かど広場の電源については、昨年度のソーラータイプだけでなく、そうごう自動車学校が運営する「そうごうほめパーク」の屋外用コンセントを交渉の結果、お借りすることができ、装飾範囲の拡大に繋がった。



そうごうほめパークからお借りした簡易分電盤

③LED イルミネーション本体及び配線の購入・加工

昨年度に使用したイルミネーションは劣化や活動に伴う故障で半分ほど使用不可状態であったため、新規にイルミネーションを購入する必要がある。本プロジェクトに割り当てられた予算+山口大学基金の活動援助資金ですべてを賄う必要があるため、昨年同様、最安値に近い物品を購入することとなっ

た。そのため、品質が悪いものが届くことや、そもそも注文個数通りに届かないなどの問題があった。そこで、昨年度と同じく防水処理や基盤の加工などを行い、1ヶ月の屋外使用に耐えうる仕様にした。昨年度は加工が不十分であったことから浸水したり点灯しなくなったりすることも少なくなかったが、今年度は昨年得た経験と新たな知識の習得により、同様の故障は起こることなく無事に点灯を終えることができた。しかしながら、製品の仕様上、線があまりにも細いところは風が強い日に断線することがあったため、断線防止策も今後は考える必要がある。また、昨年から引き続き使用した「山口らしさ」を意識したSLネオンライトイルミネーションについては、劣化から点灯しなくなる箇所があったため修理を行ったが、やはり屋外環境に晒すことによるダメージは大きいので、同様の装飾を行う場合には使い回すのではなく、作り直す必要がある。



SLネオンイルミネーション（ヤマミィ使用許可済）



バッテリーとソーラー電源を使用した装飾の例

④設置準備

設置にあたり、昨年同様、正門向かい側にある公園「街かど広場」の整備を行った。昨年の点灯前には雑草一本ない状態にまで広場内の整備をしたものの、やはり1年が経過するとほとんど元の状態に戻ってしまっていた。今年も大学から整備用の道具を借り、数日間かけて広場の整備を行い、イルミネーション点灯にふさわしい状態に仕上げた。



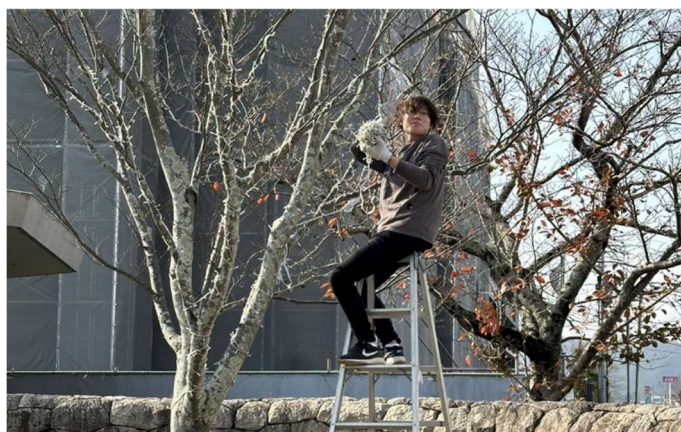
街かど広場清掃の様子

⑤設置

昨年度はボランティアを募って他団体や留学生の方にも作業を手伝っていただく場面もあったが、本年度はメンバーが増えたことでメンバーのみで取り付けを行った。樹上へのストリングライト設置も昨年度と同様に大学から脚立を借りてメンバーが行った。設置ノウハウの継承のために危険度が低いと判断した樹木は1年生のメンバーに設置をしてもらい、3年生が指導するという形をとった。

本年度のイルミネーション設置に関して工夫した点としては、縦ではなく横に広いイルミネーションを心掛けた。昨年度のイルミネーションを振り返ったり、他の自治体が行うイルミネーションを視察してみたりした結果、縦に高さがあるイルミネーションよりも横に幅広く伸びるイルミネーションの方が綺麗に見えることが分かったからである。特に山口大学石碑前、県道61号線沿いの樹木2本においては、見栄えが昨年度に比べて大幅に改善される結果となった。

昨年度ネットライトの基盤が雨水によって浸水しショートした反省を活かし、本年度は地面に接して水に浸かることがないように浮かせるように設置をし、樹上のストリングライトは基板の向きによって雨水の侵入を防げることが判明していたため、向きを調整することで故障を防いだ。また、ネットライトに関しては結露による基板部分への雨水の侵入が課題となっていたが、袋を二重に被せることにより内部への侵入が防げることが分かり、解決に至った。このような対策が功を奏したこともあり、大きなトラブルも無く点灯期間を終えることができた。



ストリングライト取り付けの様子

⑥維持管理

今年度は、昨年使用したような点検チェックシートを使わず、LINEのグループチャットを活用してイルミネーションの維持管理を行った。これにより具体的な故障箇所を画像で送信することができた

め、修理や対策に向けてより迅速に動くことができたとともに、ログの確認がしやすくなるため分析が容易となった。また、プロジェクト申請書には悪天候の場合には点灯を中止すると記述したが、今年は暖冬であったため厳しい環境でなく、また点灯のリスクがあるような悪天候の日もなかったため継続して点灯を行うことができた。

次に昨年度と大きく異なる点について詳しく説明していく。昨年度と大きく異なる点は3点ある。1点目は先述した「街かど広場内のクスノキライトアップ」、2点目は「文字オブジェの設置」、3点目は「イルミネーションのパワーアップ」である。

① 「街かど広場内のクスノキライトアップ」

昨年度から計画していたものの、予算不足や電源確保が難しいという問題があり実現することができなかったものである。街かど広場の北東側に山口そうごう自動車学校の「そうごうほめパーク」がオープンしたことにより、その店舗の電光掲示板の電源から電気を引いてくることができたことで実現した。そうごう自動車学校には後述するペットボトルツリー制作にも協力いただくことができた。



街かど広場ライトアップ

② 「文字オブジェの設置」

本イルミネーション企画に独創性を持たせることを目的とし、「XMAS CITY」の文字を正門の石垣に設置、ライトアップしたものになる。素材は安価で対候性に優れている「スタイロフォーム」を選定した。制作に関するアイデアは各地域の自治体等が設置する文字オブジェを参考にし、12月には山口市がクリスマス市と名前を変えることから、そのPRを図ったものになっている。



文字オブジェ

③「イルミネーションのパワーアップ」

昨年度の報告書の中に「点灯式をピークに通行人の関心は徐々に減少していくのみであり、点灯期間中はその保守に精いっぱいとなり注目を集めるような活動が何一つできていなかった」とあるように、昨年度の反省点を踏まえて本年度はイルミネーションのパワーアップとして「ペットボトルツリーの設置」を点灯期間の途中から行った。ペットボトルに関してはメンバーが持ち寄ったものを使用し、学生、そうごう自動車学校、平川地域交流センターに装飾を依頼した。学生には、七夕祭実行委員会、吹奏楽部、管弦楽団に依頼することになった。残念ながら平川地域交流センターからは装飾完成品をいただくことができなかったが、学生とそうごう自動車学校からそれぞれ約100個いただくことができ、地域と学生の色が入った、魅力的なツリーを完成させることができた。また、パワーアップとしてではないが、他にも新規装飾をいくつか取り入れ、全体的なクオリティアップを実現した。



ペットボトルツリー

④「点灯式」

本イルミネーションの点灯式の企画推進を当団体が行った。

点灯式の昨年度からコンセプトの変更をした進行メモを総務課、学生支援課、広報室と協働して作成し、パフォーマンス演奏を行っていただける団体との交渉と準備、学長出席の依頼とサンタ衣装の提案をさせていただいた。

全体としては地域と学生を結ぶ冬のイベントとして、良い感想をいただけたと感じる。

問題点として、雨天時の対応が演奏の関係で雨天延期になっており、関係各所のスケジュール調整も含め延期措置は望ましくないため、来年度以降も演奏パフォーマンスを行うならば対応を検討する必要があることが挙げられる。また、点灯式の企画推進を学務ではなく本プロジェクトメンバーが行ったことにより、メンバーに負担をかける結果となったため、来年度以降の実施については引き続き当団体が企画を請け負い、学生視点の新企画を導入することを目指すのか、負担軽減のために昨年度のように学務に一任するのか、検討する必要がある。



点灯式の様子

4.3 商工会議所との連携

昨年度に引き続き「日本のクリスマスは山口から実行委員会」の一員として、商工会議所と連携した活動を行った。商工会議所の発行する「12月、山口市はクリスマス市になる。」パンフレットやホームページ上に本プロジェクトのイルミネーションが掲載された。



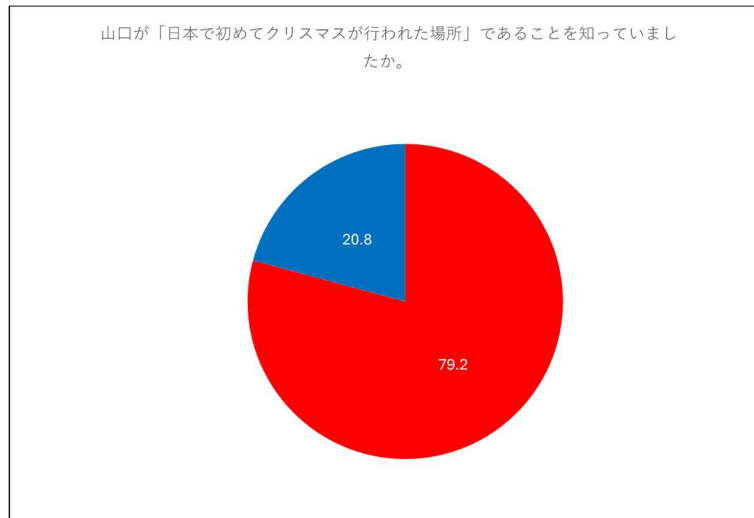
パンフレット掲載（一部抜粋。中央下）

5. 活動による効果

活動による効果をはかるため、12月21日～12月31日の期間でGoogle フォームを利用してアンケートを実施した。母数は53と昨年度よりも減少する結果となった。昨年度はSNSからアンケートに誘導する方法のみであったが、本年度はSLモチーフライトに当団体HPのQRコードを貼り付け、HP上からもアンケートに飛べるようにした。それにもかかわらず母数が少なくなってしまった原因としては、アンケートの公開が遅くなり、期間が短くなってしまったことが挙げられる。

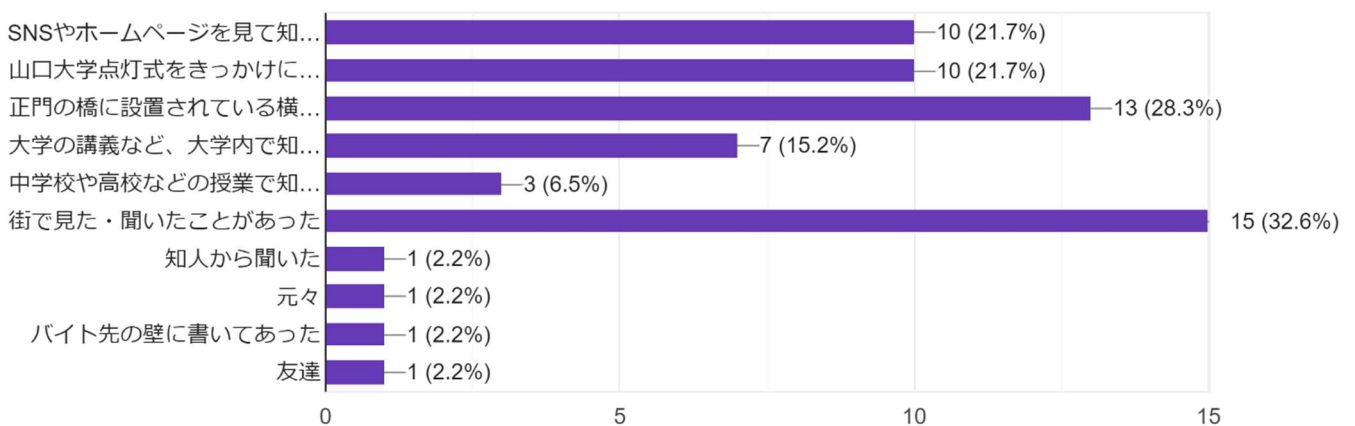
以下、アンケート結果を掲載する。（赤が「はい」青が「いいえ」）

問い（1）山口が「日本で初めてクリスマスが行われた場所」であることを知っていましたか。



1.1. どこで知りましたか。（1. で「はい」と答えた方）（複数回答可）

46 件の回答



以上の結果から、山口が日本のクリスマス発祥の地である事を知っていた人は全体の 79.2%で知らなかった人は 20.8%だった。また、それをどこで知ったかを表すグラフを見ると、街で見た人に続いて、SNS や点灯式、横断幕など私たちの活動をきっかけに知った方が多いことがわかる。

※選択肢は上から

SNS やホームページを見て知った

山口大学点灯式をきっかけに知った

正門の橋に設置されている横断幕を見て知った

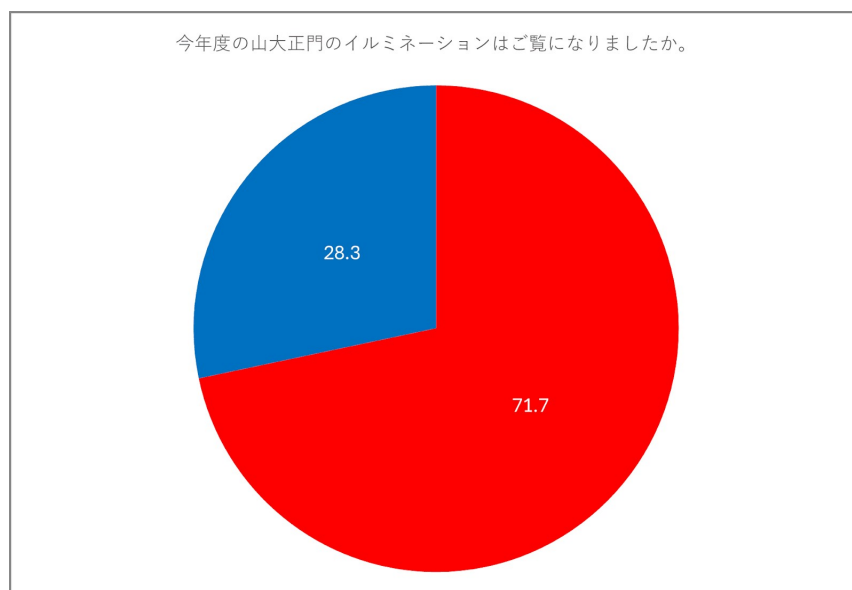
大学の講義など、大学内で知った

中学校や高校などの授業で知った

街で見た・聞いたことがあった

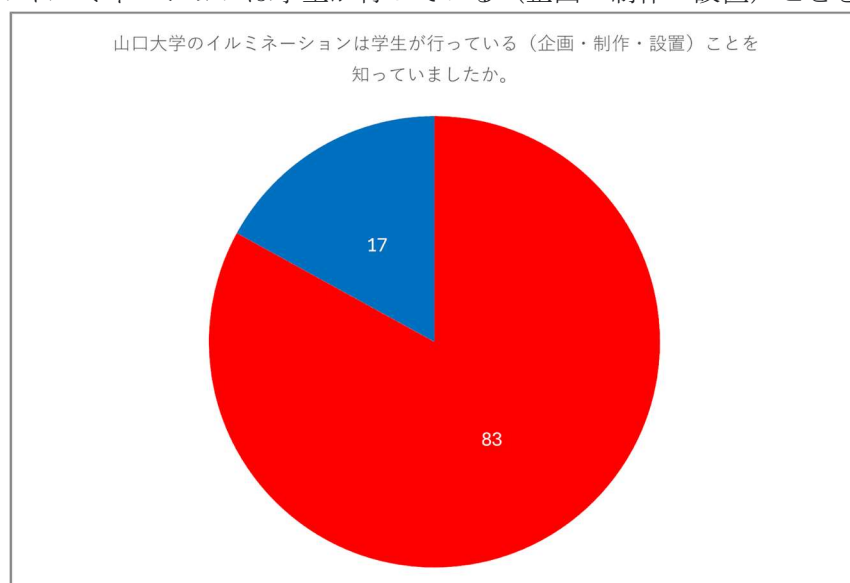
+その他（記述式）

問い（2）今年度の山大正門のイルミネーションはご覧になりましたか。



以上の問いからは、回答者が、大学生が多かったとはいえ、私たちのイルミネーションを目にした人が7割以上であることが分かる。感想は人それぞれとはいえ、私たちの活動によりクリスマスの気分を味わっていただけた人が少なからずいたということである。

問い（3）山口大学のイルミネーションは学生が行っている（企画・制作・設置）ことを知っていましたか。



以上の問いから、私たちによる活動の認知度が少なからずあることも分かる。基本的には私たちを知っている人がアンケートに回答する傾向にあるためバイアスは掛かっていると思われるが、昨年は大学が実施しているものとして多様な意見がSNS上に寄せられていたが、今年は昨年ほど見受けられないため、全体的な認知度も少なからずあると思われる。また、任意回答からの記述欄からは、好意的な意見がほとんどを占めており、活動継続を期待する声も多く寄せられた。

6. 反省点

本活動の反省点としては3つある。

1つ目は、SNS広報活動である。

昨年度は主な活動の一つに SNS 活用を挙げており、また改善点としても挙げられている点であったが、大きな改善が見られなかった。今年度は史実の認知度を狙った投稿というよりは活動の様子をアップすることを軸としていたが、頻繁な投稿を実現することができなかった。写真撮影の習慣がないことが大きな原因であったと思われるため、記録を残すためにも今後こまめに活動の様子は写真に収めるようにしたい。

2 つ目は、チームとしての動きである。

今年度はメンバー増に伴い、幅広い視点でのアイデア考案や作業負担の軽減が望めるかと思われたが、伝えた方が不十分であったり、仕事や役割の分担が上手くいっていなかったりしたことで、すべきことは山ほどある状況でも効率よく作業を進めることができていなかったことがあった。今後は、それぞれの役割を明瞭にし、それぞれが使命感を持って取り組み、企画～制作にかけて全員が活躍できるようなチーム作りを目指したい。

3 つ目は、スケジューリングである。

当団体のスケジューリングは、取り組みながら決定することが多かった印象である。本来は目的を踏まえたゴールを設定し、それに向かって逆算型で取り組むべきではあるが、それを実行できていない点は今後の最も大きな課題と言えるであろう。その計画性が仇となり、行いたいものに間に合わず断念したり、期日直前に許可が降りることになったりしたため、今後団体と活動を進展させるためにも早急に改善したい。

7. 感想

活動の感想としては、昨年度のプロジェクトでは実現できなかった事や安全性を含む改善点を修正できしており、また、独創的な作品も昨年度と比較し増えているという点は良かったと考えている。総合的には、人々に山口の良さを再認識してもらうという目的により合致している活動にはなっていたと感じている。昨年度プロジェクトと比較し構成員が増えたこと、作業・ミーティング部屋を用意したことにより今年度からの取り組みにも柔軟に対応できた場面が多かった。昨年度と同様、計画性の無さが露呈してしまう部分も多々あったが、その時々で柔軟に対応していくことができた。昨年度はイルミネーションを行うという「0→1」を作り上げる活動であったが、本年度はイルミネーションに加え、点灯式の構成に関わることができたことやパワーアップイルミネーションとして地域との交流を図ったペットボトルツリーを導入できたことから「1→10」のフェーズに移行することができたのではないかと感じている。

本活動は2年目ということもあり、多少の苦労や、関係者の方との関わりも「普通・当たり前」という感覚になりつつある部分もある。しかしながら、私たちの「チャレンジしたい」という気持ちを心から支え、ともに叶えてくださる周りの方には感謝の気持ちを忘れてはならず、より目的意識を持った活動にしていかなければならないと考えている。また、今では当然のように困難に立ち向かい、低価格とクオリティを両立した創意工夫の能力と知識を用いて解決をしているが、そのノウハウを次世代に伝えられているかという点については疑問である。新たに1年生がメンバーに加入してくれたおかげで作業面では昨年度よりも余裕をもって行うことができたが、活動内容を話し合う際に3年生中心でミーティングを進めることになってしまい、置きざり状態になってしまうこともあったと感じている。長くこうした活動を続けるために、ノウハウと気持ちの継承のフェーズで失敗しないよう、改善できる部分は早急に取り組みたい。

地域発展のため、と使命感や責任感も持ちつつも、何かを形にできたときの喜びや達成感といった感動はいつでも素晴らしいものであるし、そういったもの（いわゆるやりがい）を一番継承していくべきであるとも考えている。

前年度、今年度で得たこの貴重な機会や経験、そして前年度から引き続いてお世話になっている方々に加えて今年度新たに関わりを持つことになった方々との関係（つながり）を大切に、こうした活動を可能な範囲で続け、少しでも地域の発展に寄与できたらと考えている。

8. 今後について

本プロジェクトでは、昨年度目標にしていたことも達成しつつも、新たな課題や継続した課題が残る結果となった。今年度新たに着手した夏の活動については不完全燃焼気味であったため、今年の経験を更に広げていけるように構想を練っていきたい。また、これはおもしろプロジェクトの範囲ではないが、ブラッシュアップ・ヤマグチとして湯田温泉パークの事業にも関わらせていただいております。これを学内の活動の枠から学外で取り組みへの変化の足掛かりとなる良い機会であると捉えており、今後は全体的に山口の魅力の発信・地域活性化に向けて活動の幅を広げていきたいと考えている。活動内容以外には、チームとして、次世代へのノウハウの引継ぎと活動資金不足、活動の計画性も課題となっている。今後はチームの

クオリティアップも評価指数に入れ、それぞれの課題の解決に向けても取り組んでいく予定である。引き続き、団体名「ブラッシュアップ・ヤマグチ」の名にふさわしく、今後も学生視点からできることを探し、山口の魅力を広めるとともに振興を図り、私たちの街に磨きをかけていけたらと考えている。本プロジェクトを遂行するにあたり、大学や官公庁の職員の方をはじめ、地元企業や商工会等の方に大変お世話になったので、そのご恩を返すことができるよう、地域を意識した活動を今後も続けていきたい。